

【資料6 参考資料】「北海道科学技術振興計画」における成果指標（KPI）の達成状況等について

1 成果指標（KPI）の推移と現状

指標名	H30	R元	R2	R3	R4.5時点 の状況 (※1)	進捗率		現 状
						進捗率 (※2)	進捗率 (※2)	
指標1 道内大学等における共同研究の件数 H28 1,308件→R4 1,430件	1,543件	1,551件	1,508件	(調査中)	○	105.5%	・産学官連携の機運の高まりから、共同研究の件数は増加傾向。 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けており、今後を注視。	
指標2 製造業の付加価値生産性 H27 1,029万円→R4 1,280万円	991万円	1,025万円	(調査中)	(調査中)	▲	80.1%	・従業者1人当たりの付加価値生産性は、道内製造業全体では付加価値額、付加価値生産性とも伸びているが、目標には達していない。 ・道内の付加価値生産性は、全国平均(H30:1,341万円)の4分の3程度。 ・製造品出荷額等の業種別構成の1位は、全国は輸送用機械器具製造業、道内は食料品製造業。	
指標3 道総研における外部機関と連携した研究課題数 R2 401件→R4 420件			401件	407件	▲	96.9%	・外部機関と連携した公募研究や受託研究等に積極的に取り組み、研究課題数はおおむね達成。	
指標4 道総研の知的財産1件あたりの利用許諾件数 R2 1.7件→R4 1.5件			1.7件	1.8件	○	120.0%	・研究や技術支援の成果として得られた重要な知見や新しい技術の特許等の知的財産として出願するほか、開放特許情報の発信や企業訪問など道内企業等へ特許等の利用促進を図っている。	
指標5 特許流通サポーターによる特許流通相談件数 H28 725件→R4 755件	714件	785件	573件	627件	△	83.0%	・R元年度に目標を達成したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、R2以降目標を達成していない。 ・緊急事態宣言等の無かったR3年度下半期は相談件数が回復。	
指標6 道内大学における特許等の実施許諾数(譲渡含む) H28 686件→R4 880件	945件	1,273件	1,521件	(調査中)	○	172.8%	・大学における特許等の実施許諾数は、産学官連携の取組の高まりから増加。	
指標7 道内大学卒業生の道内就職率(理工系学部) H28 42.6%→R4 51.0%	39.2%	38.0%	41.2%	(調査中)	▲	80.8%	・道内就職率は概ね4割程度で推移しており、目標には達していない。 ・道内出身者がどの程度道内に残るかで道内就職率が決まる傾向にあるとの意見がある。	
指標8 「サイエンスパーク」参加児童生徒数 6,200名(延べ)→7,000名(延べ) (H25~H29) (H30~R4)	1,400人	1,500人	$\frac{11,000}{\text{アクセス}}$	$\frac{23,000}{\text{アクセス}}$	△	—	・新型コロナウイルス感染症拡大前(~R元)は、目標達成可能な参加数であった。 ・感染拡大後(R2~)は、感染拡大防止のためオンライン開催となり、目標達成について評価できない状況。	

[注] (※1) ○: R4.5時点で目標を達成しているもの。/▲: R4.5時点で目標まで達していないもの。/△: R4.5時点で目標まで達していないが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けているもの。

(※2) 「進捗率(%)」= (直近の実績値) / (R4目標値) × 100

2 現計画の主な進捗状況（KPIの達成状況）について

(1) 産学官金等の協働の推進について（指標1～6）

- 道内大学や道総研における共同研究に関する指標は、概ね達成しているが、産学官金等の協働の取組は、国内外の重点課題である脱炭素やデジタル化などの分野での必要性が高まっている。
- 道内では、「チャレンジフィールド北海道」や「北海道プライムバイオコミュニティ」、「共創の場形成支援プログラム」など、地域や大学の連携の取組の広域化・多様化が進んでいる。

(2) 科学技術を支える人材の育成・確保について（指標7～8）

- 人材の育成・確保については、インターンシップの実施や地元と連携した企業セミナーの開催など、産学官が連携した取組が見られるが、目標の8割程度の達成率であるため、道内の就職先となる企業の採用が活性化するよう、引き続き取り組む必要がある。